

氏名	石 崎 正 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3623号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	The formation of capsule and septum in human hepatocellular carcinoma (ヒト肝細胞癌における被膜および隔壁の形成)
論文審査委員	教授 二宮 善文 教授 岡田 茂 教授 田中 紀章

#### 学位論文内容の要旨

肝細胞癌においては癌結節周囲の線維性被膜や隔壁の形成がしばしば観察される。肝細胞癌が成長する過程において、被膜や隔壁がどのように形成されるかを明らかにする事が、本研究の目的である。対象は外科的に切除された肝細胞癌患者 25 例で、in situ ハイブリダイゼーションを用いて I、III、IV型プロコラーゲンの発現について調べた。

I型とIII型プロコラーゲンは主に $\alpha$ -SMA陽性の星細胞に発現され、これらの発現は肝細胞癌の結節間に見られる隔壁や線維性被膜内に増加していた。またこれらの発現は、肝細胞癌の浸潤の先進部や壊死部の周囲に介在する星細胞にも見られた。癌細胞や肝細胞にはこれらプロコラーゲン遺伝子の発現は見られなかった。

本研究では被膜と隔壁は、主に癌部と非癌部や癌結節同士のように、2つの異なった組織の境界部に介在する $\alpha$ -SMA陽性の間葉系細胞によって形成される事を明らかにした。創傷の治癒機転が、肝細胞癌内でも起こっている。被膜は腫瘍とその宿主である肝臓の相互作用により形成され、肝細胞癌の成長や浸潤を抑制していると考えられた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、肝細胞癌の被膜や隔壁が如何に形成されるかを明らかにする目的で、肝細胞癌25例につきin situハイブリダイゼーション法を用いてI, III, IV型コラーゲン遺伝子の発現を調べた。その結果、癌部と非癌部の境界部に存在する $\alpha$ -SMA陽性の間葉系細胞がI, III型コラーゲン遺伝子およびIV型コラーゲン遺伝子を発現していることを明らかにした。これらの間葉系細胞が被膜や隔壁形成に重要な役割を担っていることを指摘したのとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。